

報告

「 院外処方箋疑義照会及び院外処方箋への検査値印字に関するアンケート調査 」

青森労災病院
薬剤部長 中村一成

青森労災病院（以下、当院）では、2008 年より院外処方箋の疑義照会は薬剤部が窓口となって対応を行っており、2015 年 5 月より一部の内容（①一包化調剤への変更、②残薬調節の為の処方日数の変更、③別規格への変更、④同一成分の銘柄変更、⑤外用薬の規格変更、⑥半錠・粉碎・混合、⑦回/週に服用薬剤等の処方日数変更）について医師と事前に作成したプロトコルに基づき病院薬剤師が直接回答を行っている。

また 2016 年 4 月 1 日より、院外処方箋に主に副作用のモニタリングに有効な 14 項目の検査値（ WBC、Neut、HGB、PLT、 γ -GTP、AST、ALT、BUN、Creat、eGFR、CRP、K、Ca、CPK ）の印字を開始している。上記業務について 2016 年 12 月に一般社団法人八戸薬剤師会会員にアンケート調査を行い、その結果を第 7 回日本病院薬剤師会東北ブロック大会及び第 27 回日本医療薬学会年会等で発表したもので、その内容を報告する。

「院外処方箋疑義照会対応に関する保険薬局薬剤師へのアンケートと現状調査」

○八木橋 美里 1), 工藤 香澄 2), 中野 有瑛 1), 馬場 親紀 1), 鈴木 常義 2), 中村 一成 1)

1)独立行政法人 労働者健康安全機構 青森労災病院 薬剤部

2)東北医科薬科大学薬学部 薬剤学教室

【目的】青森労災病院(当院)では、院外処方箋の疑義照会は薬剤部が窓口となって対応を行っており、2015 年 5 月より一部の内容について事前に作成したプロトコルに基づく直接回答を開始した(プロトコル対応)。今回、保険薬局薬剤師を対象に疑義照会対応に関するアンケート調査を行い、プロトコル対応導入後の院外処方箋疑義照会の現状調査を実施した。

【方法】アンケート調査は、2016 年 12 月に八戸薬剤師会の会員 330 名を対象に郵送にて配布と回収を行った。アンケートは匿名式とし、当院の疑義照会対応及びプロトコル対応に関して、時間、利便性、安全性、妥当性、総合評価の 5 項目について 5 点満点で満足度を調査し、Customer Satisfaction(CS)分析を行った。現状調査は、2015 年 5 月から 2016 年 12 月におけるプロトコル対応件数と医師へ疑義照会した件数、疑義照会内容について集計を行った。

【結果】アンケートの回収率は 29.7%(98 名/330 名)だった。疑義照会対応及びプロトコル対応に関する満足度は、全項目で平均点が 4 点以上だった。疑義照会対応の総合評価が 3 点以下の群(n=12)では、利便性の重要度が最も高く(0.51)、満足度は 25%だったが、プロトコル対応では満足度は 45.4%に改善していた。また、期間中の疑義照会件数は 2643 件だった。プロトコル対応は 816 件(30.9%)であり、一包化調剤への変更が 218 件(27%)と最も多く、次いで残薬調整に伴う日数変更が 175 件(21%)だった。医師へ疑義照会を行った 1827 件(69.1%)のうち、用法用量に関する疑義が 418 件(23%)で最も多かった。

【考察】アンケート調査より、当院の疑義照会対応は一定の満足度が得られていたが、総合評価が低い群での検討から利便性の改善が求められることが分かった。プロトコル対応の導入により、全疑義照会の 3 割は薬剤部で対応しており効率化に繋がっている。今後プロトコル対応が可能な項目や運用

を見直し、円滑な疑義照会対応へつなげていきたい。

院外処方箋疑義照会対応に関する 保険薬局薬剤師へのアンケートと現状調査

○八木橋 美里¹⁾, 工藤 香澄²⁾, 中野 有咲¹⁾, 馬場 親紀¹⁾, 鈴木 常義²⁾, 中村 一成¹⁾
1)独立行政法人 労働者健康安全機構 青森労災病院 薬剤部
2)東北医科大学薬学部 薬剤学教室

はじめに

- 青森労災病院(以下、当院)では、2008年8月のオーダリングシステム稼働に伴い、院外処方箋の疑義照会は薬剤部が窓口となり電話にて対応を行っている。
- また、2015年5月より、当院の医師と協議し作成したプロトコルに基づく直接回答を開始した(以下、プロトコル対応)。
- 今回、プロトコル対応導入後の院外処方箋疑義照会状況の調査及び保険薬局薬剤師を対象とした疑義照会対応に関するアンケート調査を実施したので、報告する。

当院における院外処方箋疑義照会の流れ



プロトコル対応可能な項目

- ①一包化調剤への変更
(患者希望やアドヒアランス等の理由による)
- ②残薬調整に伴う処方日数の変更
- ③別規格への変更(例:10mg 2錠 → 20mg 1錠など)
- ④同一成分の銘柄変更
- ⑤外用薬の規格変更(合計処方量が変わらない場合)
- ⑥半錠・粉碎・混合(患者アドヒアランス等の理由による)
- ⑦1回/週に服用薬剤等の処方日数変更

院外処方箋疑義照会の現状調査について

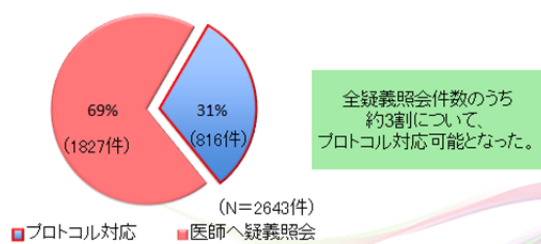
【調査対象期間】

2015年5月14日(プロトコル対応開始日)から2016年12月31日まで

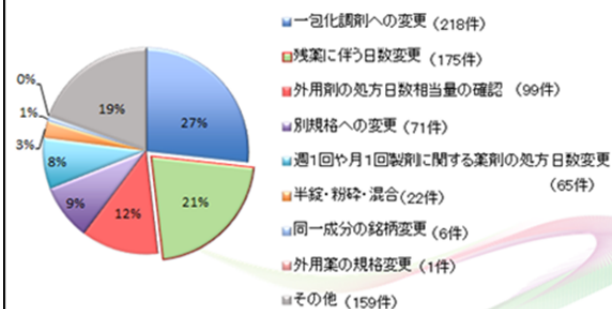
【調査項目】

プロトコル対応件数、医師へ疑義照会した件数、疑義照会内容

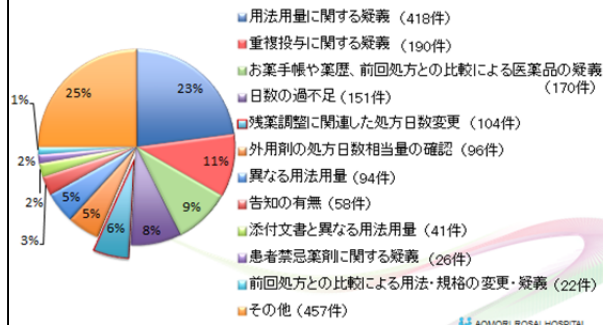
調査期間における院外処方箋疑義照会対応件数



プロトコル対応の内訳



➤ 医師への疑義照会の内訳



保険薬局へのアンケート調査について

【対象】

保険薬局に勤務する八戸薬剤師会の会員330名

【配布・回収方法】

(一社)八戸薬剤師会発行物「八葉通信」にアンケート(匿名式)および返信用封筒を添付し、郵送にて配布。
同封の返信用封筒にて回収。

【調査項目】

勤務状況、当院への疑義照会状況、
プロトコル対応の認知度・経験の有無、意見・要望等

【評価項目】

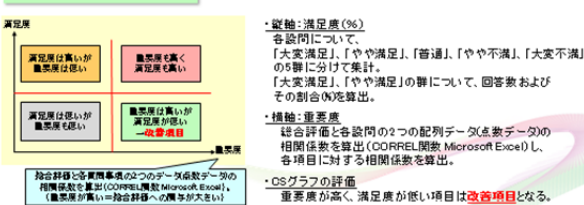
当院の疑義照会対応、プロトコル対応に関して、
時間、利便性、安全性、妥当性、総合評価の5項目について、
5段階評価で満足度を調査。CS(Customer Satisfaction)分析を実施。

Customer Satisfaction(CS)分析について

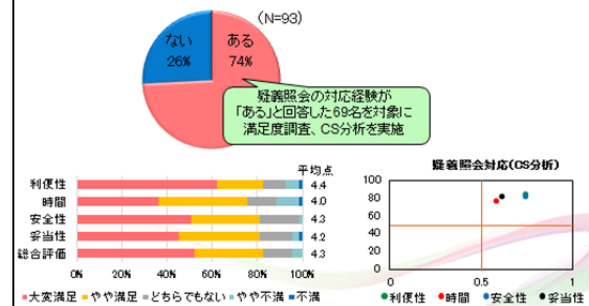
① アンケート結果を数値化した評価

Ⅲ おおよびⅣの各設問に対して、下記の通り点数を設定し、平均値を算出。
大変満足=5点、やや満足=4点、どちらともいえない=3点、やや不満=2点、大変不満=1点

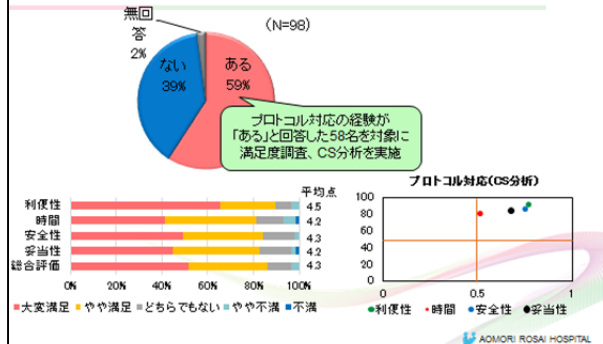
② CSグラフ(散布図)からの評価



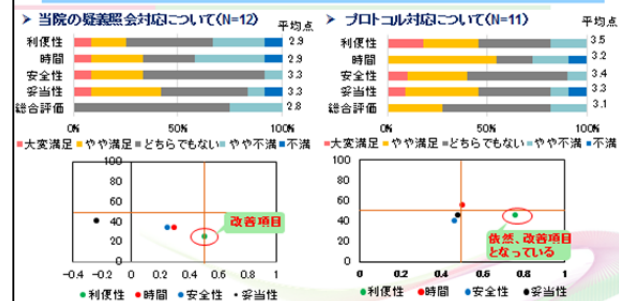
➤ 当院の院外処方箋受付経験があり、疑義照会経験のある割合



➤ 当院の疑義照会対応において、プロトコル対応経験のある割合



当院の疑義照会対応およびプロトコル対応はいずれも高い満足度が得られていた。
■疑義照会対応の総合評価が3点以下の群を対象としてCS分析を実施。



✓プロトコル対応項目への追加を希望する項目(改善項目)

「外用剤の用法用量、医師の指示通りの際の患者取扱いによる使用部位や回数」の指示: 9件 「剤型変更」: 8件

考察

- ・プロトコル対応の導入により、全疑義照会のうち約3割については薬剤部で対応しており、業務の効率化に繋がっている。
- ・一方で、「残薬調整に関連した処方日数変更」については、プロトコル対応可能な項目であるものの、医師へ疑義照会をおこなっており、残薬が生じた背景を考慮し、介入している状況が明らかとなった。

- ・アンケート調査から、当院の疑義照会対応ならびにプロトコル対応において、全ての評価項目で平均点は4点以上と高い満足度が得られていた。
- ・一方、疑義照会対応の総合評価が3点以下の群(N=12)では、利便性の改善が必要と考えられ(重要度0.51、満足度25%)、プロトコル対応においても満足度は45.4%であったことから、さらなる利便性の改善が求められる。
- ・利便性に関する要因の1つとして、プロトコル対応可能な項目が挙げられる。特に、「剤型変更」については、患者の服薬状況からの薬学的介入が望ましいと考えられる項目であり、今後検討が必要と考えられる。

- ・また、今回の調査より、「外用剤の用法口授、医師の指示通りの際の患者聴取による使用部位や回数の指示」や「湿布薬の処方日数相当量の確認」の疑義照会が多いことがわかった。
- ・このうち、用法の「医師の指示通り」については、2017年5月の電子カルテ移行に伴い選択不可とした。また、「湿布薬の処方日数相当量の確認」についても、湿布薬処方の際、適応部位に加えて処方日数相当量の入力がおこなわれるように用法マスタを変更し対応している。今後も、プロトコルの改定や電子カルテの見直し等をおこない、より円滑な対応につなげていきたい。

「 院外処方箋への検査値印字開始に至るまでの取り組みと保険調剤薬局における検査値活用状況についてのアンケート調査 」

○中野 有瑛 1)、青柳 伸一 2)、馬場 親紀 1)、山田 文義 2)、中村 一成 1)

1) 独立行政法人 労働者健康安全機構 青森労災病院 2) 一般社団法人 八戸薬剤師会

【目的】青森労災病院（以下、当院）では、薬物療法の有効性・安全性確保のため、平成 28 年 4 月 1 日より、院外処方箋に主に副作用のモニタリングに有効な 14 項目の検査値（ WBC、Neut、HGB、PLT、γ-GTP、AST、ALT、BUN、Creat、eGFR、CRP、K、Ca、CPK ）の印字を開始した。印字開始に至るまでの取り組みと、同年 12 月に八戸市薬剤師会の協力を得て、検査値付き院外処方箋の活用状況についてアンケートをおこなったのでその結果について報告する。

【方法】検査値印字開始にあたり、医局会へ提案し、患者への告知やプライバシー保護のための措置を講じた。また、保険調剤薬局向け説明会を開催し、八戸市薬剤師会を招いた薬薬連携セミナーも開催した。アンケートは選択（複数可）と自由記載の形式で、八戸市内 113 薬局に送付し、所属する薬剤師（複数可）から回答を得た。

【結果】医局会で合意を得た造血系、肝機能、腎機能、電解質等の 14 項目について印字を開始した。現在、患者に不利益が生じるような問題は発生していない。アンケートは 64 名から回答を得た。検査値の印字により精神的変化があったのは 48 名、そのうち生活指導に変化が生じたのは 27 名で最も多く、活用頻度の高い項目は肝機能を示す項目であった。また、当院の印字項目について不満が 37 名と満足 20 名を大きく上回り、今後印字を希望する項目は HbA1c が 33 名と最も多い結果となった。

【考察】印字項目について、処方鑑査と副作用の早期発見を目的とした項目に限定したことが合意に繋がったと考えられる。アンケート結果からは、肝機能を中心とした副作用モニタリングがおこなわれており、HbA1c といった生活習慣を反映する項目の印字が望まれていることから、生活指導に重点を置いた活用も多い状況と推測される。検査値活用経験の有無にかかわらず、検査値の印字により保険薬剤師の内面に確実な精神的変化をもたらしている。検査値が適切に活用されるよう、今後も薬薬連携セミナーを継続して開催するなど、薬物療法が適切におこなわれるために病院が主体となり働きかけていく必要があると考えられる。

保険薬局における院外処方箋 検査値活用状況に関するアンケート調査

○中野 有瑛¹⁾ 青柳 伸一²⁾ 馬場 親紀¹⁾ 山田 文義²⁾ 中村 一成¹⁾

1)独立行政法人 労働者健康安全機構 青森労災病院
2)一般社団法人 八戸薬剤師会

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

はじめに

青森労災病院(以下、当院)では、処方鑑査の徹底および副作用モニタリング等を目的として平成28年4月1日より、院外処方箋に検査値情報を印字している。

今回、検査値活用状況について把握するため、八戸薬剤師会の協力を得てアンケートをおこなった。

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

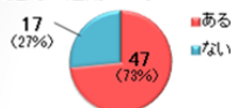
方法

- 無記名 自由記載を含むアンケート形式
(項目については薬剤師会に一任)
- 回答方法: FAX
- 調査対象: 八戸薬剤師会会員の所属する113薬局
(勤務薬剤師が複数の場合はコピーして使用可)
- 有効回答数: 64

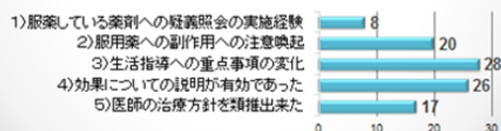
AOMORI-ROSAI HOSPITAL

検査値付き院外処方箋について(全般)

(1) 検査値付き処方箋または患者が持っている検査値の情報等を服薬指導に活用した事がありますか。

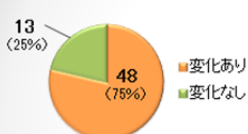


(2) 「ある」の場合、検査値が無い場合と比較して、指導内容に変化がありますか？(複数可)



AOMORI-ROSAI HOSPITAL

(3) 検査値付き処方箋または患者が持っている検査値の情報がある場合、調剤を行う薬剤師の内面の(精神的な)変化はありますか？



変化あり

- 病気の重症度、薬剤の効果がわかる。
- 薬物療法についてデータの裏付けがあるため安心できる。
- 検査値から処方内容が適正か、疑義の必要が無いかを確認しながら調剤できる。

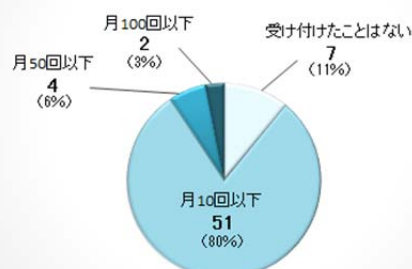
変化なし

- Drは検査値を把握して処方していると思っているから。
- 検査値はあくまで調剤する上での参考であり、それにより患者に直接指導すべきではないと考えているため。
- 普段から聞き取りで確認しているので不要。

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

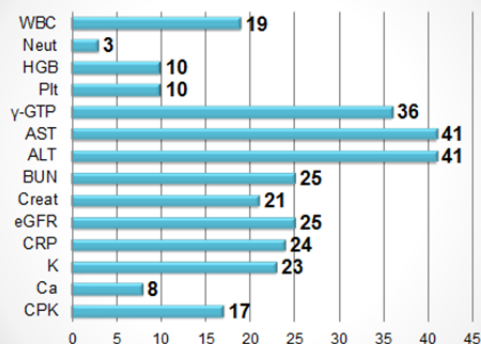
当院の検査値付き院外処方箋について

(3) 青森労災病院の検査値付きの処方箋を受付たことがありますか？



AOMORI-ROSAI HOSPITAL

(4) 活用している項目を選んでください。(複数可)



AOMORI-ROSAI HOSPITAL

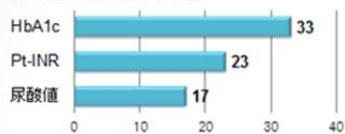
(5) 項目に満足していますか。



AOMORI-ROSAI HOSPITAL

(6)「いいえ」の場合、それはどのような部分ですか。

①印字項目(今後希望する項目)



その他希望する項目(自由記載)

- ・ 血圧
- ・ 骨塩量
- ・ PSA
- ・ 血糖
- ・ コレステロール
- ・ 尿潜血

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

②検査値の時期



③その他(自由記載)

- ・ 処方変更の理由
- ・ 検査をおこなった理由(医師の視点が知りたい)
- ・ 何か月も前のデータでは意味がない
- ・ 薬剤と連動した印字内容になればもっと良い

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

(7)今後、処方箋とともにあると、服薬指導や患者の支援に役立つと考えられる事項はありますか。(複数可)



AOMORI-ROSAI HOSPITAL

結果

- 64名中、47名(73.4%)が検査値の活用経験があった。
- 活用経験の有無にかかわらず、48名(75%)は検査値の印字により精神的に変化が生じている。
- 指導内容については、生活指導への変化が最も多かった。
- 活用頻度の高い項目は、肝機能、次いで腎機能であった。
- 印字項目については、満足していないと回答した割合が多く、HbA1cの印字希望が最も多かった。

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

考察①

- 処方箋への検査値の印字により、精神的な変化が生じており、処方鑑査や指導面においてその情報を活用または活用したいと考えている薬剤師が多いことがわかった。
- 印字項目については、HbA1cや尿酸値といった生活習慣を反映する項目の印字が望まれていたことから、患者の生活指導に重点を置いた活用が多い状況と推測される。

AOMORI-ROSAI HOSPITAL

考察②

- しかしながら、検査値に基づく医師の処方意図が汲み取れていない可能性や、投与量調節が必要な薬剤が見過ごされている可能性も否定できない。
- 実際、印字開始当初は疑義が増加すると予想していたが、腎機能に応じた投与量の調節といった疑義はほとんどないのが現状である。
- 薬物療法の安全性向上のため、保険薬局側の要望も踏まえ、適切に検査値が活用されるよう、薬剤師会と協力して広く働きかける必要がある。

AOMORI-ROSAI HOSPITAL